

「大阪との関わり」と「大阪人は信号が青になる前に渡り始める」というイメージとの関連

中山祐輔

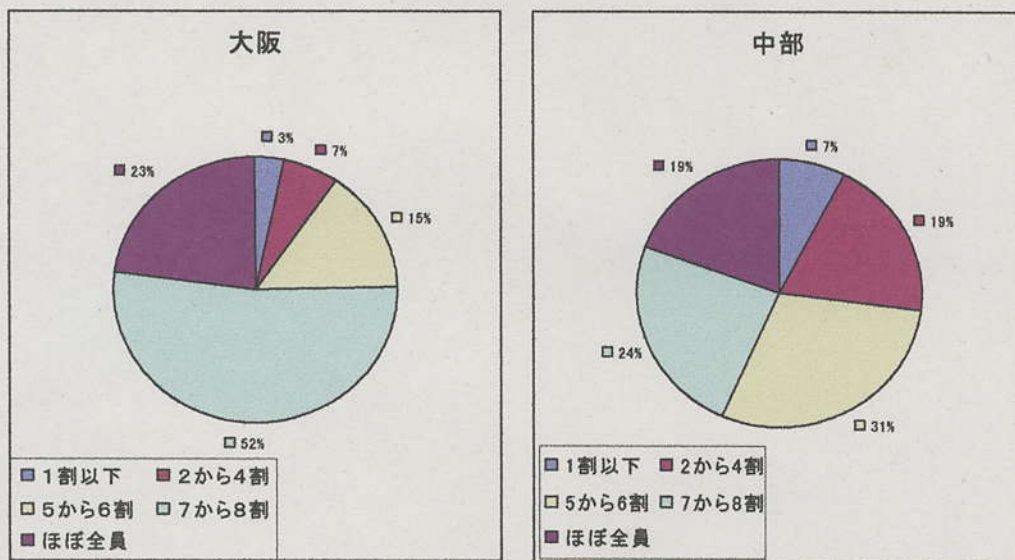
(1) はじめに

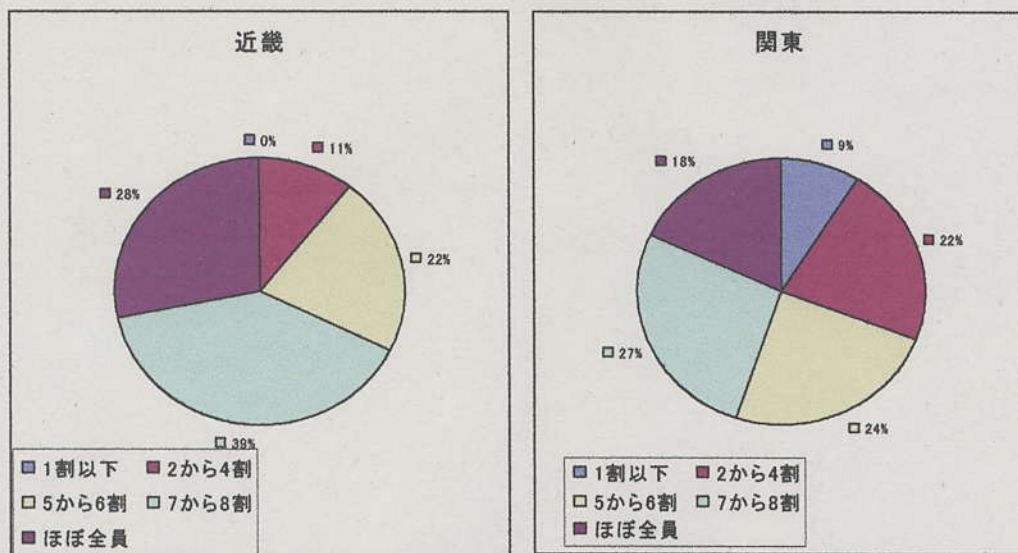
「大阪人は信号が青になる前に渡り始める」というイメージ（以下、当該イメージ）がある。これは一体どの程度の範囲に浸透しているのか、調査を行ってみた。

(2) 居住地と当該イメージとの関連

まず、アンケートの対象地域を「大阪」「近畿地方（京都・兵庫・奈良・三重）」「中部地方（富山・愛知・岐阜・石川）」「関東地方（茨城・千葉・埼玉）」の4つに分け、それぞれの地域に居住する人がどのように当該イメージを持っているか調べてみた。

以下、調査結果を円グラフに表示する。回答者には、「大阪人の何割が信号が青になる前に渡り始めるか」という質問項目に、「1割以下」「2～4割」「5～6割」「7～8割」「ほぼ全員」の5つから選択肢を選ぶ形で回答して戴いた。そしてその結果を、調査を実施した地域別にグラフ化した。

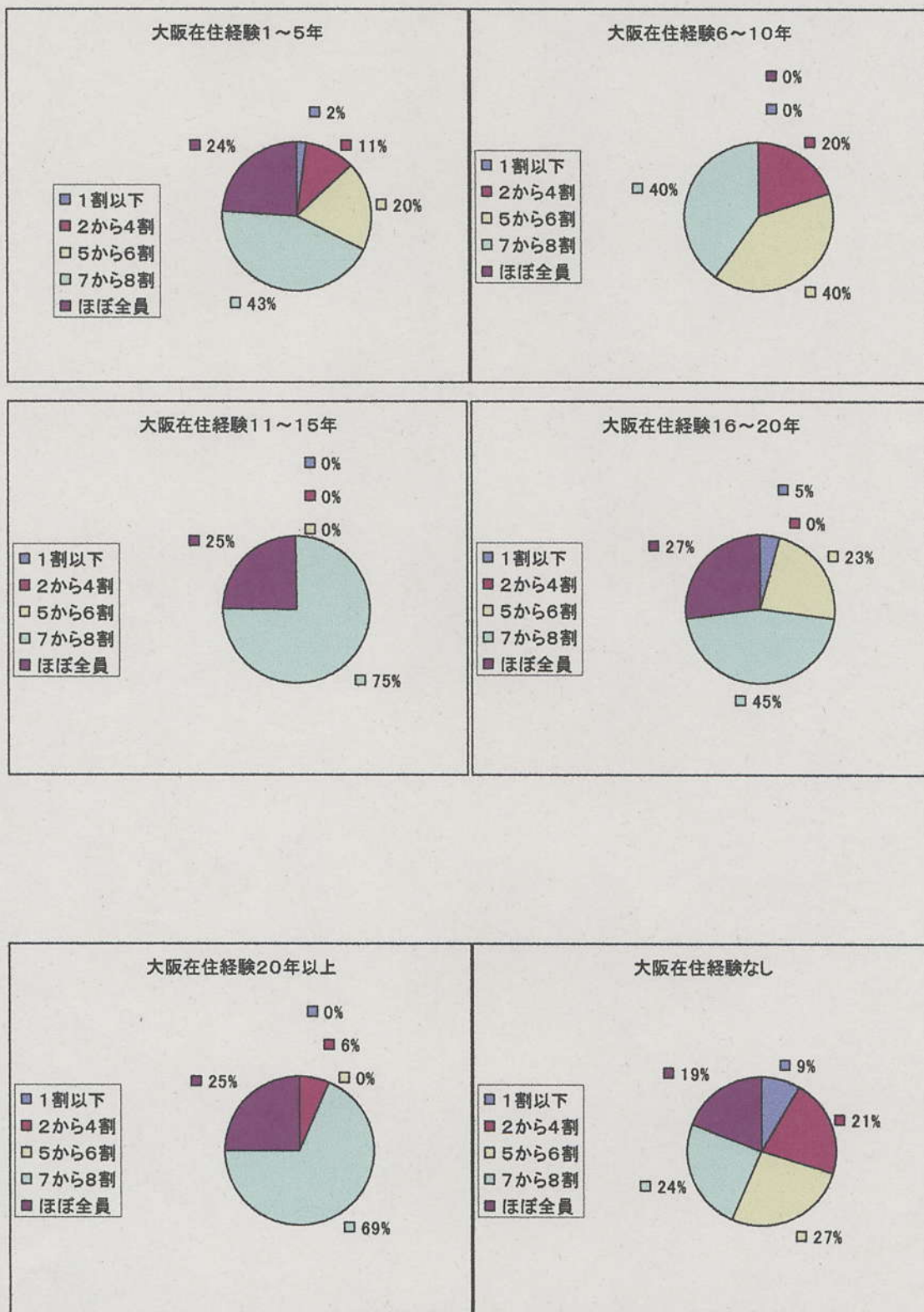




円グラフを一見すると、大阪と近畿、中部と関東の間はそれぞれ大変よく似た傾向が読み取れる。しかし、大阪・近畿と中部・関東の間では傾向に違いがある。「半分以上の大阪人が信号が青になる前に渡り始める」と考えている人の割合は、大阪在住では 90 %、近畿在住では 89 %であるのに対し、中部在住では 74 %、関東地方では 69 %である。このことから、「大阪を含む近畿圏に在住している」ことで、「大阪人は信号が青になる前に渡り始める」というイメージを持ちやすい、という事が言えそうである。

(3) 在住歴との当該イメージとの関連

現在大阪に含む近畿圏に在住する人間と、当該イメージとの関連は分かった。では、大阪に住んでいた経験と当該イメージとは、どのように関連しているのか。その事を調べるために、今回調査した大阪在住経験を「1~5年」「6~10年」「11~15年」「16~20年」「21年以上」「経験なし」の6パターンに分け、どのように当該イメージを持っているか調べてみることにする。



「半分以上の大阪人が信号が青になる前に渡り始める」と考えている人の割合は、大阪在住歴が1～5年で87%、6～10年では80%、11～15年では100%、16～20年では95%、21

年以上で 94 %、在住経験無しでは 70 %となっている。1 年でも大阪に在住した経験があれば、大阪に在住した経験のない人と比べて当該イメージを持ちやすい、ということが言えそうである。しかし少なくとも調査結果からは、在住年数の長さが当該イメージの持ちやすさに関連しているという結論は得られない。

(4) 結論

今までの調査から、大阪または近畿圏に在住していれば、「大阪人は信号が青になる前に渡り始める」というイメージを持ちやすいということが分かった。また、現在大阪に在住していなくとも、在住経験があれば当該イメージを持ちやすいということも同時に判明した。しかしその一方で、在住経験の長短では、持つイメージに違いは出ないということが読み取れる結果となった。

(5) 反省

大阪に対する様々な関わりと当該イメージとの関連性については充分調査出来た。しかし、アンケートに「信号が青になる前に渡り始めますか」という項目が無かったため、イメージと実際との比較を行うことが出来なかったのは大きな痛手であった。この比較が出来れば、今以上に様々な結論を導き出すことが出来たかも知れない。

そして、必要とする項目をアンケートに盛り込むことが出来なかったことの最大の原因は、アンケート結果を使ってどのような調査をするかということを事前に考慮しないままアンケートを作成してしまったことにあると考えられる。

次年度には卒業論文があるため、再びアンケートを取ることになる可能性がある。また、来年の新 3 回生も私たちと同様に調査実習を行うことであろう。こういった次の機会には、調査内容をこういったものにするのかを熟考した上で、そこから逆算する形でアンケート項目を作っていきたい。